

会 議 録

会議の名称		第 6 回豊中市環境審議会(第 14 期)		
開催日時		令和 5 年(2023 年)12 月 25 日(月) 10:00-11:30		
開催場所		WEB 開催	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局		環境部ゼロカーボンシティ推進課	傍聴者数	1 人
公開しなかった理由		—		
出席者	委 員	猪井委員、加我委員、小島委員、小谷委員、諏訪委員、田中委員、前迫委員、余田委員、青木委員、山本委員、熊本委員、廣田委員		
	事務局	環境部：糸井部長、道端次長兼資源循環長、藤家次長 ゼロカーボンシティ推進課：片羽課長、湯浅主幹、石原係長、北郷係長、今川主査、盛村主査、上田主査、菅主事、河瀬 家庭ごみ事業課：溝口課長、鈴木課長補佐、三島課長補佐 減量計画課：立谷課長、西岡副主幹 公園みどり推進課：奥田係長、益住主査 美化推進課：吉村課長 環境指導課：小坂課長、多々主幹、中井課長補佐		
	その他	エヌエス環境株式会社		
議 題		1. 第 3 次豊中市環境基本計画の進行管理 ・環境報告書「とよなかの環境～2022 年度評価と今後に向けて～」 2. 次年度の協働の取組みに関する意見交換会について		
資 料		資料 1：環境報告書「とよなかの環境～2022 年度評価と今後に向けて～」 (案) 資料 2：協働の取組み事例一覧 参考資料 1：「とよなかの環境 資料編」(案) 参考資料 2：第 14 期環境審議会名簿		
審議等の概要 (主な発言要旨)		別紙のとおり		

1. 第3次豊中市環境基本計画の進行管理

○会長

では、次第に沿って進めます。案件1、第3次豊中市環境基本計画の進行管理について、資料1の説明を事務局からお願いします。

○事務局

資料1の説明

○会長

今回の審議会では、審議会の意見の欄について話し合いたいと思います。市のほうに何かを投げ掛けるというよりも、むしろ環境審議会の中で議論し、文章を最終決定させることに尽きると思います。

では、第2章の目標1、4ページの審議会評価の文章について、意見等があればお願いします。

○委員

今回はテーマについて議論するのではなく、環境情報の発信という視点から議論したことを、評価で補足しておいたほうがいいと思います。テーマで環境情報の提供と書いていますが、それが通常とは違うということが分かりません。環境情報の提供という視点で議論したからこそ、審議会評価の二つ目の課題があるということになればなりません。ただ課題として挙げられただけでは、あまり意見交換会の意味、効果がもたらされないと思います。この部分の表現についてももう少し議論し、書き込むべきだと思います。

○会長

1行目では、「情報発信を行っており」と書かれていますが、今回、話し合ったテーマについてという表現がいいでしょうか。

○委員

今回の意見交換会では、これまでのテーマではなく、環境情報の提供という視点で意見交換をした結果、課題として、若い世代とのつながりなどが掲げられたということがあれば、今後は情報発信手法を選択していく必要があるということにつながると思います。ただ課題として必要がありますとだけ言われても、何のことか分かりません。そういった視点での発信が必要だという文脈にすべきではないかと思います。

○会長

今回話し合った環境情報の提供について、課題を明確にするという文言にするということとで、文章を具体的に考え、入れるということによろしいですか。

○委員

はい。

○会長

これまでさまざまなテーマがありましたが、その中で環境情報の提供というテーマで話し合い、その中の課題として位置付けたほうがいいという意見でよろしいですか。

次に、目標2に入ります。1人あたり温室効果ガス排出量を、令和9年度までに平成2年度比32.1パーセント削減し、低炭素社会をめざすという目標です。事前に読まれていると思いますが、これについての審議会評価について、表現等、文章の修正があればお願いします。

○委員

今回、事前に配布された資料1全体を見て分からなかった所の確認です。昨年度末の報告書では、二酸化炭素の排出係数について、固定と変動の係数が後ろの方のページで説明され、違いを見ることができましたが、今回はそのページがありません。前回、中間評価の際にも、固定や変動の違いで見るとどうなのか、それがこの表現にどのようなつながっているのか、質問しました。確認する資料がないため、この表現が適当かどうか、全て評価できないのではないかという気がするため、質問したいと思います。

○会長

今回、その部分がない理由を聞けばよろしいですか。

○委員

なぜないのかということと、前回、そこがどうだったのかということを確認したと思います。これは変動の値を使っていると思いますが、固定で見たときの実績も含めどうだったのか、もう少し教えてもらわなければ、この審議会評価が適当なのかという議論ができないという気がします。

○会長

では、今回、表現を修正するに当たり、固定と変動の係数に関して話を聞きたいと思います。事務局、いかがでしょうか。

○事務局

変動値を使うことになった経緯については、昨年、前回説明しています。変動値、固定値での推移についても、こちらで確認しています。固定値であっても減少はしており、省エネ

が進んでいることは見て取れると思います。

○委員

1年前の報告書では、変動であれば目安線を下回っており、固定であれば目安線を上回っていたと思います。それについて、今はどうになりましたか。

○会長

今回は文章のみ表現を変えるという話ですが、その裏にある疑問点だけを聞かせてもらいたいと思います。

○事務局

目安線について、いったん数値を確認し、すぐ報告します。

○委員

減ったということは理解できたので、減ったという表現については異論ありません。しかし、例えば、先ほどの目安線などについては、減ってはいるもののさらに必要なのか、着実に進んでいるのか、少しニュアンスが変わるような気がします。もう一つ、家庭部門など、コロナ禍以前の数値に戻っていないということが抽象的で、何を指しているのかが気になります。

○会長

この部分は、どのような表現をすればいいでしょうか。

○委員

一つは、後者は、コロナ禍以前の数値に戻っていないというところで、何が戻っていないのかがよく分かりません。前者は、先ほどの答えによって少し表現が変わるのではないかという気がしました。

○会長

では、その答えを待って、表現を考えるということによろしいですか。

○事務局

目安線を下回っているかどうかということについて、変動値は順調に下回っていますが、固定値は、実際の目安線よりも上回っており、目安は達成できていません。目標2の温室効果ガス排出量の削減について、省エネの実施だけではできないところに関しては、排出係数を使つての削減にしていきたいということで、変動値とし、今後、目安を見せてもらいたい

と昨年度話し合いが行われたため、こちらで判断したいと思います。

○会長

今の意見を聞いて、文章としてどのような表現をすればよろしいでしょうか。

○委員

家庭部門などコロナ禍以前に戻っていないとは何を指しているのでしょうか。それが今の目安線の話ですか。

○事務局

排出量に関する意見については、家庭部門の温室効果ガスの、この排出量のことを指しています。左上に書いている、代表指標 1 人あたり温室効果ガス排出量という表現が続いているとご理解ください。

○委員

今の説明はよく分かりませんでした。説明のとおりであれば、コロナ禍以前に戻る、戻らないではなく、家庭部門は引き続き高いという書き方をすべきではないかと思いました。

○会長

では、この部分で、しかしながら、家庭部門など、コロナ禍以前の数値に戻っていないわけではなく、引き続きという表現に変えたほうが良いということですか。

○委員

今の事務局の回答をそのまま解釈するとすれば、何が戻っていないという説明がないため、その表現は残せないと思います。示すものがあれば、そのとおりかどうかの判断はできます。

○会長

この件について、他の委員の方、意見がありますか。

○委員

この部分をぱっと見ただけでは参考数値とは何かという説明が分かりません。家庭部門はあまり下がっていないということと、恐らく、今回大幅に貢献したのは産業部門だと思います。下の表を見ると 60 パーセント削減ということなので、これはかなり大幅なものだと思います。家庭、業務、運輸、産業と見たとき、家庭、業務、運輸はグラフがあるけれども、なぜ産業部門はないのでしょうか。また、この産業部門 64 パーセントという驚異の数字が

なぜ達成できたのか。何かコメントがあれば伺いたいと思いました。

○会長

今回は、全体の情報の中で環境審議会としての評価をしていくことです。先生の言われるとおり、産業部門ではかなり減少しています。その部分をもう少し審議会評価として入れるべきだという意見でしょうか。

○委員

そうです。もしその理由までは分からないということであれば、なぜこのように減少したのかについても今後分析していくという記述があってもいいと思います。

○会長

産業部門がかなり減っているというところは、評価としても入れるべきではないかというご指摘です。その理由について、まだ分析できていなければ、今後、注視していくという形で表示してよろしいですか。

○委員

初めの質問ですが、参考数値とはなんですか。

○事務局

参考数値を記載し、2019 年は実際に排出係数固定で審議していただきました。その後、突然、変動で出した場合、推移が分かりにくいということで、当時の変動値の値で記載しているものが参考値です。

○委員

当時の変動ですか。参考数値であれば下がっていることは分かるけれども、そうではないところでは、もしかしたらどうなのかという質問につながっていたということですか。分かりました。

○会長

その件に関して、審議会評価のところで示す必要があるかどうかについては、いかがでしょうか。

○委員

「家庭部門などコロナ禍以前の数値に戻っていない部分については、今後も注視していく必要があります」という部分で、「注視していく必要がある」という文言を他の目標にも

使っています。注視して、下げていくのか、上げていくのか、どうしたいかという評価が分かりません。もう少し明確に記載すべきだと思います。みどり率などは、目指しているものが何で、これからどうするのかということが分かります。それぞれの評価を見ていると、現状分析だけにとどまり、今後こうする必要があるということについて、もう少し具体化して明記したほうがいいと思います。ここでは、せっかく数値を挙げているのに、前半では、減少している、順調に進んでいるなど書かれていて、しかし、家庭部門は何々についてといったように、コロナ禍以前を書くことによって少し分かりにくくなっているという指摘だと思います。順調に進んでいるところもあるけれども、家庭部門では数値が上がっているとまでは言えないまでも、減少とはなっていないため、今後、より対策を強化していく必要があるというように分かりやすい言葉で書いたほうがいいのではないのでしょうか。

また、項目立てについて、一つの項目が5、6行と長いのですが、資料を見ていくと、一つの項目を途中で切って二つ目に、「また」で始まっている文章があります。項目立てするときは、「また」で始まらないほうがいいです。私たちが審議会で数字からどのように評価し、今後どのように持っていくかということが、読んでいる人に分かるような書き方にしたほうがいいと思います。目標5まで読むと、課ごとに書き方が違っています。どのような目線でデータを見据え、今後どうするのかということです。今、順調だという評価であれば順調です、順調ではないところについてはこうするというように書いてはどうでしょうか。事業系ごみは何々です、「また」ではなく、これは事業系ごみではない話ですから、「また」は要りません。宅配やテイクアウトについて書く場合は、そういった言葉から始まればいいので、もう少し明確に書いたほうがいいと感じます。数字に基づいて評価し、今後の方向性が分かるよう、注視といった言葉ではなく、もう少し明確に書いたほうが分かりやすいと思います。1から5までトータルに言えるという印象を持ちました。

○会長

この注視しているというのは、恐らく審議会の意見かどうかは分からないので、一応、書いているものだと思います。そのことについては、私たちのほうで気を付ければいいということです。委員からの指摘は、全体を通してきちんとエビデンスを載せ、今後どうしていくかを、審議会の意見としてまとめる必要があるということだと思います。それについては気を付けて表現します。

○委員

前回の中間報告の際、減少はしているけれども、その要因が、以前は車の利用が減り、低燃費化が進んだという説明でした。今回、減少の要因は、鉄道の運行頻度が減り、排出量が減ったためということで、自動車の排出量自体は伸びているという説明になっています。前回書かれていた参考資料の基準では、交通としては特段審議会評価として意見を挙げる必要はないと思いましたが、この結果を見ると、自動車の排出量が上がっており、これは良く

ないということを挙げておかなければいけないという気がします。修文というより項目追加すべきだと思います。

もう一点は、目標 5 で、家庭でできることで CO₂を削減しましょうと言っています。目標 5 で CO₂がでてきていますが、目標 2 で特出しています。ここで CO₂削減ということは、あまり良くないと思います。もし載せるのであれば、前に挙げ、CO₂削減しましょうという審議会評価のところに取り込んだほうがいいと思います。数字が変わったのであれば、ここは読みを変え、車は増えているため、もう一段、減らさなければならないということと、貨物が増えているのであれば、業務系の運輸が増えているため、減らさなければならないという評価をする必要があると思いました。

○会長

審議会評価のどこに入ればいいでしょうか。

○委員

審議会評価の目標 2、ゼロカーボンを達成していくために、という部分か、一つ目と二つ目の「・」の間に追加し、部門としては減っているけれども、バランスとしては、われわれが今まで言ってきたことと逆のことが起こっています。車を減らし、鉄道に乗ってくださいというけれども、鉄道は減っており、車が増えたため、CO₂は相対としては減っているけれども、長期的にいうと、実は増えていく方向につながります。そこはあらかじめ出しておいたほうがいいのではないかといいことだと思います。評価としては、恐らく数字では見えにくく、説明しにくいところは、この辺りで説明するのが適当ではないかと思います。審議会評価のところで、一つ目と二つ目の「・」の間に、付け加えるべきではないかと思います。

○会長

では、一つ目と二つ目の間に、部門は減っているが、車自体が増え、業務部門も増加傾向にあるためということですか。

○委員

小型貨物と書かれているので、恐らく業務車両だと思います。その読み方が正しければ、そう書いていいと思います。

○会長

では、そちらに入りたいと思います。

○委員

事務局に聞きたいと思います。今、示された運輸部門の読み方が変わったということは、

前回の資料とは変わっていますが、そういった読み方で間違いはないか、確認したいと思います。

○会長

では、事務局から、データそのものが変わっている点に関してはいかがでしょうか。

○事務局

前回の審議会の際、要因分析について指摘がありました。今回は、あらためて事務局で要因分析を行い、導き出したもののため、文面を変えています。

○委員

そうであれば、追加したほうがいいと思います。

○会長

今回追加させていただきます。

○委員

前回、審議会の中間報告書では、この代表指標のグラフに注釈を付け、非連続になっています。今、映している画面は、※1 ですが、中間評価のときはもう一つ、※2 が付いており、この非連続の説明も入っていました。中間報告で注釈が付いているのに、今回、注釈が消えています。昨年年度末の報告書には注がありませんでしたが、別紙で細かい説明が載っていました。今回、別紙で説明されないのであれば、中間報告のように注を付けることで、先ほどの委員の後半の意見を一つ解決すべきだと思います。

○会長

委員からも指摘があったということなので、注釈を増やし、※2 を復活させて分かりやすくしたほうがいいのではないかとということです。これは審議会意見との関係で増やすという形でいいでしょうか。

○委員

はい。

○会長

事務局に確認しますが、紙面の都合も考え、分かりやすさという側面から注釈を復活させるということでもいいですか。

○事務局

追加するということで大丈夫です。

○会長

では、次に目標3に入ります。これに関してはいかがでしょうか。先ほど、委員から、「また」が入ることは、表現としておかしいという意見がありました。「また」を消したほうがいいですか。

○委員

上の事業系の一般的なごみの話をして、事業所としてまとめているものと次の課題とは違うため、「また」ではないと思います。

○会長

では、「・」もなくしてもよろしいですか。

○委員

いいえ、「・」はトータルに入れ込むほうがいいのか、分かりやすくするのか、長く書いている所と、二つの項目に分けている所があります。短いほうが分かりやすいですが、言いたいことがきちんと言えているかということが重要だと思います。しかし、これを見ると、最初のほうでは、現状はうまくいっているけれども、「引き続き」と書いてあることで一つ終わっています。次のことは別のこととして、リサイクル率の話をしています。これは、短いけれども違う項目で扱ったほうが分かりやすいと思います。

○会長

では、「・」は残し、「また」だけ消すということでよろしいですか。他に何かご意見はありますか。こちらについては、特に意見はないようです。

次に、目標4、「みどり率27パーセントで、心豊かな豊中らしいまちをめざす」という所の審議会評価を確認してください。

○委員

ここは文章的にはこれでいいと思いますが、みどり率ということで、数値を二十何パーセントに上げることについてのみ触れています。公園やため池などの緑地率や、イベントへの参加率など、数値だけを目標としているように思います。豊中自体が持っている自然の質的なものについて、生物多様性の認知度というよりも、行政として外来種・在来種のデータなどを持っていないため、どこかと連携するという話でした。私としては、もう少し生物多様性の保全に向けた市民のイベントや活動が、より活発になる方向を目指すといったように、

内容にも触れたほうがいいと思います。行政の姿勢、分担などもあり、ここにそういったことは書き込みにくいのでしょうか。みどりに関するイベント参加数にしても、実際に里山管理のためのイベントなののでしょうか。みどり率を上げ、質を高め、生物多様性を高めるためのイベントなののでしょうか。どういったイベントなのか分かりにくいです。もう少し中身が見えるよう書き込みができるのであれば、変更してもらいたいと思います。ここに挙がっている数値だけから判断できることではないので、対応できるかどうかはお任せするしかありませんが、いかがでしょうか。

○会長

先ほど前迫先生が言われたとおり、定性的な分析も含め、生物多様性について触れるとすれば、どのように表現したらいいのでしょうか。

○委員

データがなければ勝手に書くことはできません。
調査資料があれば、書いてもらいたいと思います。

○委員

みどりのイベントもさまざまなものがあるので、三つ目の「・」をつくり、三つ目の評価を足してはどうでしょうか。本年度は、アカミミガメやアメリカザリガニといった外来生物法も変わり、市民に身近な生き物が増えてきました。法律改正と書くかどうかは分かりませんが、外来生物や生物多様性の問題が、より市民に身近になりつつあるということです。情報発信がいいのか、施策として推進すべきと書くのかどうかは分かりませんが、行政として、これまでよりも積極的に生物多様性に関わってもらう必要があるという審議会評価を出してもいいと思います。

環境基本計画の中で、4-4-4に生物多様性の項目を入れてもらっています。みどりだけではなく、生物多様性の項目が、目標4の所に立っていてもいいのではないのでしょうか。

○会長

生物多様性の法律も若干変わり、外来生物もより市民に身近なものが出てきています。今後も参加型の生物調査を含め、生物多様性を充実させ、参加者を増やす取組みが必要だということを三つ目の「・」で書いていいのでしょうか。

○委員

外来種駆除を通して、市民に生物や生物多様性について知ってもらう機会を設けたということです。行政レベルで行われていることを書いてほしいです。外来種に対する取組みや、生物多様性を保全するための市民参加型のものがあれば、「・」を付けて書けば非常に分か

りやすいと思います。

○会長

生物多様性に関しては、行政と市民が協働で進める必要があると思います。では、その文章を三つ目の「・」として入れますが、異論はありませんか。

○委員

用語説明のみどりという言葉の説明の文章が気になります。「みどりの基本計画で定義する、何々の緑地」というよりも、「みどりの基本計画では、これを緑地として定義している」という言い方にすべきだと思います。みどり率も緑被率も特殊な用語なので、このとおりでいいのですが、みどりというのは一般的に使う言葉で、それがこの報告書ではこういった意味で使っているという書き方のほうが分かりやすいと思います。この部分は少し読みづらかったので、見直してほしいと思います。

○会長

では、用語の表現として、基本計画でみどりはこのように定義しているという表現の仕方でよろしいですか。

○委員

みどり率はみどりの樹林から屋上緑化まで、そのまま引っ張ってきて、合計面積が地域に占める割合と書かれています。みどりおよびみどり率と、箇条書きにしないほうが分かると思います。この中で定義された樹林から屋上緑化までの緑地をみどりとして、全市域に占める割合をみどり率にしたというほうが、関連していることが分かって理解が進みます。分かっていると、みどりはこれ、みどり率はこれというように違う項目に読み取れます。違う項目なのはみどり率と緑被率の使い分けであり、上の二つは関連していると分かるので、検討をお願いします。

○会長

みどりとみどり率を合わせた形で表現したほうが分かりやすいということですか。

○委員

そうです。

○会長

では、変更します。他にはありませんか。

○委員

前回、提案が出たと思いますが、今、映っている表のみどり率の評価が D になっています。この評価については、7 ページの下の方に説明がありますが、目標 5 が評価 D というのは納得できますが、目標 4 がなぜ評価 D なのでしょう。今後、イベントの参加者数も増えてくると思われるので、C でもいいのではないかと思います。評価が D というのは印象が強いため、あまり悪い評価にしないほうがいいのではないのでしょうか。目に付いたとき、D と書いてあると非常に悪い印象を受けます。変えなくていいのかという疑問があります。

○会長

他の計画でも行政が自身で評価する場合、かなり辛口です。評価を D にし、今後もう少し努力する必要があるという考え方なのかもしれません。審議会評価と関連する内容ですので、公園みどり推進課から、評価 D を付けたことに対して、コメントはありますか。事務局でも構いません。

○事務局

恐らく、前回もこの評価 D の話がありました。こちらのほうが評価の手順ということで、一定の要件設定をしています。7 ページの下のことを指摘されましたが、A、B、C、D、それぞれ前年度の代表指標に目安線を引き、代表指標でこれまで管理しています。例えば、来年度以降は「とよなかの環境」の改定があります。どのようなタイミングということもありますが、今回は初期設定で、評価しています。

○会長

少し辛口なのではないかという委員の気持ちはよく分かりますが、コロナの影響もあるという話も出ているため、評価に関しては D ということです。審議会評価については、この三つの「・」を変える必要はありませんか。

○委員

はい。

○会長

目標 5 に移ります。環境基準の達成状況 100 パーセントで、快適な都市環境を目指すところですが、審議会評価はこれでよろしいですか。意見があればお願いします。

○委員

意見は二つあります。一つ目は、環境審議会の評価のところ。1 行目の生活環境について、その後、「市民や市の取組みの成果が現れています」で文章が終わっています。その

後に、高い達成率を持続できるよう、市民の協力を呼び掛けるような文章があってもいいのではないのでしょうか。以前、打ち水などを呼び掛けたように、今後も市民の皆さんに協力を呼び掛けるような文章があってもいいと思います。大気の問題は、豊中市だけの協力ではどうにもなりません、一人一人のちょっとした努力によって、何かできるのではないかと思います。ということで、そういった文章があってもいいと思います。

もう一つは、評価とは関係ありませんが、家庭でできることでCO₂削減と書かれています。先ほど委員から目標2と重複するという話がありました。車は排気ガスだけではなく、タイヤの摩耗や車が通ることによる巻き上げ粉塵が発生します。それがPMなど、大気汚染の原因といわれています。私の個人的な意見ですが、もし、CO₂削減という言葉を用いるのであれば、マイカーを利用することによる巻き上げ粉塵やタイヤの摩耗を削減できるということを、家庭でできることに挙げてはどうでしょうか。何か工夫をして書いたほうがいいと思いました。

○会長

家庭でできることというのは、先ほど別の委員から目的地までうんぬんは目標2に移したほうが良いと言われました。委員は、そこに、車は巻き上げ粉塵やタイヤの摩耗などがあり、それを削減する取組みが必要だということを入れれば良いということですか。

○委員

はい。CO₂削減を目標2に移すのであれば、何か家庭でできることを書かなければいけないと思います。大気の問題は、家庭でできることが難しいと思うので、書くことがなければ、そういったことを書けばいいと思いました。

○会長

1点目に、審議会評価として1つ目の「・」の所に、高い達成率に向けて市民の皆さん一人一人協力をお願いしますというような表現を入れること。2点目は、家庭でできることとして、車に関連した巻き上げ粉塵やタイヤの摩耗について入れれば良いという意見でした。1点目は審議会評価なのでいいのですが、2点目の、そういった表現をすることに関して、事務局の意見はどうでしょうか。

○事務局

ご意見ありがとうございます。CO₂の問題は、目標2との関係もありますが、道路騒音等にも自動車の台数が減ることは、削減に関係すると思います。事務局のほうで一度修正文案を考え、あらためて提示します。

○委員

表現についてです。電力のエネルギー量がといった表現だったので、厳密に考えたとき、エネルギーなのか、電力なのかという表現がいいと思いました。

○会長

表現の方法なので、事務局のほうで検討してもらえればと思います。

○委員

目標 5、審議会評価と、家庭でできること、事業所でできることのトーンについての質問です。事業所でできることとして、アスベストについて特出しています。読んでいて、あまりリンクしないと思いました。なぜ、アスベストを特に事業所でできることとして出されたのでしょうか。

○会長

大阪府ホームページを見てくださいという話もありました。関係機関が別のところが多いということもあり、こういった表現になったと思います。事務局から答えてもらえますか。

○事務局

アスベストそのものは環境基準として設定されているものではありませんが、環境分野において、大気の種類として非常に問題となっています。また、ここ何年かで法律の規制等も順次評価されているということもあります。トピックス的な話として、事業所ではなく、事業活動の一環という形で挙げています。

○委員

読んでみると、アスベストよりも優先してできそうなことが他にありそうな気がしたため、少し合わない感じがしましたが、さまざまな事情があるということで、了解しました。

○事務局

電力のエネルギーの使用について、量は高い数値を維持しているという表現ですが、エネルギーなのか電力なのか分かりにくいということでした。確認すると 7 ページの家庭部門の要因分析についてでしょうか。電力使用量としては高止まりしているという表現のほうが良いという提案ですか。

○委員

家庭部門と業務部門に同じ表現が見られるので、二つのアイテムに共通したものと考えていいのでしょうか。

○事務局

承知しました。家庭部門と業務部門は同じように「電力のエネルギー使用量は」と書かれているということで、「電力使用量としては高止まりしている」という表現がより良いという指摘のとおり修正します。

○会長

1 の案件については以上として、本日伺ったことを元に、私と事務局で文章、文案を作成しますので、お任せいただきたいと思います。

2. 次年度の協働の取組みに関する意見交換会について

○会長

次に、2 の案件の次年度の協働の取組みに関する意見交換会について、説明をよろしくお願いします。

○事務局

資料 2 の説明

○会長

最初に、意見交換会を行ってから 6 年がたちました。今回は、前回の意見交換会参加者に限らず、さまざまな団体に参加してもらおうということです。恐らく、今後も話し合いはできると思いますが、話を聞いて、何か意見等があれば、よろしくお願いします。いかがでしょうか。

○委員

目標 1 から目標 5 まであり、平成 30 年に初めてから目標の数字を変え、順番に行ってきたと思います。目標 5 に対象のテーマがなかったとき、事務局の説明では、目標 5 は飛ばすけれども、後はある程度、順番に進めていくという説明だったと認識しています。今回、2 年前のように、目標 3 に戻っていくということですが、順番に取り上げていくことについて、事務局としてはどういった考えなのか、教えてください。

○会長

目標 1 から目標 5 の順番に取り上げ、意見交換するというスタイルだったと聞いています。目標 3 が多いということですが、事務局に何か考えがあるようなら伝えてください。

○事務局

以前、審議会で、一巡したときに、今後はどうするかについて話し合いがあり、最終的に、次は目標 3 ということでスタートしました。3R の推進の取組みについて行い、昨年は環境情報の提供で、目標 1 ということになりました。目標 4、目標 2 となり、順番どおり進めることができればきれいだったのですが、今回は一覧の中から最適な協働事例ということで、変化があり、協働団体が複数あるという観点で、意見交換会として話し合いを提案しました。

○委員

順番では今度は目標 4 の生物多様性になるはずだったと理解していました。一つ目の案件で、別の委員が提案した、生物多様性を含めたテーマはあると思います。目標 3 でいくなら、それを押しのけて 4 にしろとまでは言いませんが、次の年はきちんと元に戻るのでしょうか。徐々にやりやすいところばかりに流れ、いつまでも触れられない目標があってはいけないのではないかと思います。バランスも含め、毎年セレクトしていくべきではないでしょうか。

○会長

生物多様性についての話し合いは今後ということで、それを避けることはできないと思います。今回、フードドライブを実施するにしても、意見交換会は継続すると思います。

○委員

フードドライブ事業については先ほどの説明どおり、平成 30 年から非常に事業者も増え、回収量も増えました。順調に進んでいるところを重点的に協働で行うことは、少しもったいないという思いがあります。今回、環境審議会全体で議論してきたとき、豊中では、ここが進んでいないところを、来年度、協働で行うということであれば納得感があります。先ほどの説明では、なぜフードドライブにしたのかが分からなかったのも、その説明をしてほしかったです。

○事務局

今回、われわれは、来年度はフードドライブを中心に行っていきたいという話をしました。さまざまなことを意識して考えていかなければならないということをあらためて思いました。この意見交換会が、その後の協働やパートナーシップの広がりにつながらなければならないという意識を持ちたいと思います。しかし、目標の順番にこだわり過ぎたために、協働やパートナーシップが発展せず、有意義な意見交換会にならなければ意味がありません。さまざまな点から多角的に協議し、進めたいと思います。

○会長

まだ話し合いができる状況です。次の審議会もありますので、話を十分に詰めてほしいと

思います。他に何か意見があればお願いします。よろしいですか。本案件で意見がまとまらなかった部分については、時間の関係もあり、私と事務局のほうで話をすることがあるかもしれません。審議会意見については、ほとんど皆さんが発言されたので、まとめたいと思います。

○事務局

次の意見交換会については、われわれが内部で準備してきた中で、今のところ、フードドライブが一番いいだろうと考えています。当然、今後も基本計画は継続しますので、次回以降については、先ほどの委員からの指摘を踏まえ、偏り過ぎず、目標の違いを意識して進めたいと思います。次回の意見交換会については、フードドライブについて進めたいと考えていますので、お願いします。

○会長

来年はフードドライブの状況に応じて、また次にということでもよろしくお願いします。

○委員

例年、通常の審議会であれば、出された報告書全体に対して、審議会評価以外のところも気になった場合は意見を出していました。本日は、時間の都合もあるのか、論点を議論してほしかったのか、それ以外のところについて発言する時間がありませんでした。これについて、もし気になるところがあれば、個別に事務局に伝えればいいのでしょうか。

○会長

今後の進め方ということですが、本日は審議会の意見はお聞きしましたが、それ以外について、もし委員のほうから何か意見があれば、どうすればいいかということですか。

○委員

はい。

○会長

さまざまな方法があると思いますが、個別に委員から話を聞くのか、私が事務局とやりとりをして決定するのか、どちらかになると思います。

○事務局

その他の意見については、年明けの 1 月 5 日を期限とし、事務局のほうに意見をいただきたいと思います。その意見については、会長に一任という形で、会長と協議したいと思いますがいかがでしょうか。

○会長

委員の皆さまいかがでしょうか。

○会長

年末年始を挟みますが、意見がありましたら 1 月 5 日を期限とします。これで終了します。進行を事務局にお返しします。

○事務局

会長、ありがとうございました。審議会の委員の皆さまご審議ありがとうございました。
第 6 回豊中市環境審議会を終了します。